

第一外科この一年

第一外科医長 西山 徹

私が名寄に赴任して、早くも2年が過ぎました。赴任当初は、これといった観光名所もないこの地で、どうやって暮らしていったものかと戸惑ったものでした。しかしながら住めば都とはよく言ったもので、春はタランボにアイヌネギ、夏はゴルフにフィッシング、秋はボリボリにラクヨウ、冬はスキーにスノーモービルと瞬く間に季節は流れ、いつしかこの街に馴染んでいました。噂には聞いていた冬の厳しさも二冬目を迎え、飲み過ぎた翌日には冷気も肌心地良く感じるようになりました。

わが第一外科も1955.6.1より岡村圭祐先生に代り矢野智之先生が、3カ月出張医に代り柳荘一郎先生がそれぞれ赴任して来ました。当院外科の歴史において出張医がいないのは、私が知る限り今年が初めてではないでしょうか。最低でも1年はあるということは、患者さんとの信頼関係においても、また名寄の四季を経験するという意味においても、重要な事だと思えます。

さてこの一年間の手術症例(局麻を除く)ですが、314例と去年の229例から85例増加しています。特に鏡視下手術の増加はめざましく、32例から75例と倍以上になり、胃癌・大腸癌などもそれぞれ9例ずつ増加しています。癌の末期治療も受け持っている現状からは、ベット数も考えるとそろそろ限界の数値かと思えます。また今回、緊急手術症例をまとめてみましたが、別表のごとく96例(31%)と全手術症例の約1/3を占めていました。予定手術は勿論ですが、緊急手術症例の多寡は地域センター病院の活動性の指標となりますので、今後もスタッフ一同努力していきたいと思えます。

名寄市立総合病院第一外科手術症例

(1995.1.1~1995.12.31)

①胃疾患<31例>	
胃癌	28例 (胃全摘6例)
胃平滑筋肉腫	1例
胃悪性リンパ腫	1例
胃潰瘍穿孔	1例
②腸疾患<52例>	
結腸癌	10例
直腸癌	19例
イレウス	12例
その他	11例
③急性虫垂炎<54例>	
④ヘルニア<62例>	
小児鼠径ヘルニア	10例
成人大腿・鼠径ヘルニア	47例
その他	5例
⑤肛門疾患<16例>	
内外痔核	11例
肛門周囲膿瘍	5例
⑥肝臓疾患<2例>	
転移性肝腫瘍	1例
外傷性肝損傷	1例
⑦胆道系疾患<66例>	
胆石症	61例
総胆管結石症	2例
胆嚢癌	1例
総胆管癌	1例
肝門部胆管癌	1例
⑧膵疾患<5例>	
膵癌	3例
嚢胞性膵疾患	2例
⑨乳腺疾患<12例>	
乳癌	12例
⑩その他<14例>	

合計 314例
 <全身麻酔 228例>

腹腔鏡下手術症例<75例>
 腹腔鏡下胆嚢摘出術 48例
 腹腔鏡下ヘルニア根治術 26例
 腹腔鏡下胃部分切除術 1例
 小児外科症例<急性虫垂炎・ヘルニアを除く>
 腸重積症 1例
 肥厚性幽門狭窄症 1例

当科における緊急手術症例
 (名寄市立総合病院 第一外科)

1995. 1. 1 ~ 1995. 12. 31における手術総数(局麻を除く)は314例で、全麻症例は228例であった。その内、緊急手術症例は96例(31%)を占めた。以下、その内訳を提示する。

麻酔別内訳
 全麻症例 39例
 腰麻症例 75例(硬膜外麻酔を含む)

疾患別内訳
 急性虫垂炎 54例
 腸閉塞 14例
 (癒着性、絞扼性を含む)
 肛門周囲膿瘍 6例
 ヘルニア嵌頓 3例
 汎発性腹膜炎 5例
 直腸穿孔 2例
 十二指腸潰瘍穿孔 1例
 S状結腸穿孔 1例
 外傷性肝破裂 1例
 痔核嵌頓 1例
 小児腸重積 1例
 肥厚性幽門狭窄症 1例
 その他 6例

胸部心臓血管外科診療の現況

—スタートから3年間の歩み—

第二外科医長 和 泉 裕 一

当科は平成5年6月に外科の一部門として病床の一部をわけていただき、久保田宏院長の他2人のチーム(和泉裕一、内田恒)で呼吸器疾患、末梢血管疾患などから診療を開始しました。平成6年6月からは内田恒先生から羽賀将衛先生に交代となり人工心肺装置の整備および院内の勉強会、セミナーなど心臓大血管手術にむけて準備をすすめました。平成6年12月に待望の開心術(僧帽弁閉鎖不全症に対する人工弁置換術)の第一例目が行われた後、平成7年に入り着実に心臓大血管疾患の手術症例が増加してきました。平成7年6月には羽賀将衛先生から浅田秀典先生に交代となり現在にいたっていますが、浅田先生の精力的な仕

事のおかげで診療体制も整い飛躍的に前進した感があります。

旭川より北で心臓血管外科は当科のみであることから、カバーする地域は非常に広いことになり、この全地域のニーズにすべてこたえることになるのであれば、動脈硬化性疾患の増加と相まって今後ますます症例の増加が予想されます。昨年(平成7年)の前半は心臓大血管手術は平均1例/月程度の割合でしたが、後半からは約3例/月のペースとなり、最終的に合計20例の心臓大血管手術が行われました(表1)。平成8年はさらにハイペースで1例/週になっています。

手術症例の内訳は、冠動脈疾患、弁膜症がおも